

会議録

会議の名称	第3回 枚方市改革・改善サイクル評価員会議
開催日時	平成26年9月3日（水）14時00分から14時33分まで
開催場所	枚方市役所別館4階 第3委員会室
出席者	正木啓子評価員、三木潤一評価員、和田聡子評価員
欠席者	-
案件名	(1) 一次評価及び二次点検・評価対象事業の決定について (2) 二次点検・評価の実施について (3) その他
提出された資料などの名称	資料① 一次評価結果集計表（検討資料） 資料② 二次点検・評価対象事業選定シート 資料③ 今後のスケジュール
決定事項	枚方市改革・改善サイクルにおける二次点検・評価対象事業を決定 二次点検・評価の実施方法を決定
会議の公開、非公開の別及び非公開の理由	公開
会議録などの公表、非公表の別及び非公表の理由	公表
傍聴者の数	5人
所管部署（事務局）	行政改革部 行政改革課

審 議 内 容

開 会

座 長：それでは、定刻となりましたので、ただ今より、第3回枚方市改革・改善サイクル評価委員会を開催いたします。

まず初めに、事務局から配付資料等について、確認をお願いいたします。

事務局：それでは、お手元の資料の確認をさせていただきます。

資料は本日の案件等を記した次第と、**資料①**一次評価結果集計表（検討資料）、**資料②**二次点検・評価対象事業選定シート、**資料③**今後のスケジュールとなっております。

過不足等は、ございませんでしょうか。

事務局からは以上でございます。

案件（1）一次評価及び二次点検・評価対象事業の決定について

座 長：それでは、次第の案件（1）一次評価及び二次点検・評価対象事業の決定についてを議題とします。事務局より資料等の説明をお願いいたしますが、この間、3評価員につきましては、独任制に基づいて、それぞれチェックをつけたものを事務局にばらばらにお送りさせていただいております。よろしくをお願いいたします。

事務局：それでは、お手元の**資料①**一次評価結果集計表（検討資料）をご覧ください。

こちらの資料は、前回、7月14日の第2回評価員会議におきまして、平成26年度の一次点検・評価対象事業として、選定いただきました101事業につきまして、事務事業実績測定調書及び事業概要説明シートを資料として、一次評価いただきまして、評価員の皆さまに、二次点検・評価対象事業とすべき事業について、チェックをつけていただいた集計結果となっております。

資料の見方といたしましては、表の左から「グループ名」、次にそのグループにおける「事業数」、そして「事務事業選定チェック」といたしまして、評価員の皆さまが、二次点検・評価対象事業とすべきとチェックをされた事業数を表示しております。

今回のチェックでは、特に重点的に検証・評価すべき事業につきましては「◎」をチェックさせていただいておりますことから、◎と○の2段階でのチェックとなっております。

このことから、この資料では、その事業に対して、何名の評価員が◎もしくは○をつけたかを数字で表しております。

負担金交付事業グループを例にいたしますと、負担金交付事業グループのうち、一次点検・評価の対象とした7事業のうち、3名の評価員全員が二次点検・評価対象事業とすべきとチェックをされた事業のうち、3名の評価員が○とした事業が1事業、1名の評価員が◎、1名の評価員が○とした事業が3事業、2名の評価員が○とした事業が2事業といった形で記載しております。

次に、**資料②**二次点検・評価対象事業選定シートをご覧ください。

こちらの資料は、今回評価いただいた全ての事務事業名称を記載し、二次点検・評価対

象事業とすべきとしてチェックをした評価員数を事業ごとに記載した資料となっております。

表の右側にあります「二次点検・評価対象事業」欄は空白としておりますので、この後、二次点検・評価対象事業を選定していただく際に、ご活用いただきたいと考えております。

資料の説明は、以上となります。

座長： それでは、まず二次点検・評価対象事業の選定作業に入ります前に、今回の一次評価を行った際のそれぞれ評価員の評価の視点や感想などをお聞かせいただきたいと思っております。

まず、私のほうから、雑駁なことになりますけれども、グループ分けにして、少し前回とは異なる形での点検に入ったわけなんですけれども、評価の視点というのは、前回も申し上げたんですけれども、もっと効率的・効果的な、そして前回抜けていたんではないかと思ったのが、今回の事業を見せていただいて、公平性という考え方もきちりから見ないといけないということで、公平性をもって事業を進めるという方法はないか。そういう、どちらかというと前回の評価員会議からの継続した視点でひとつは見ました。

それから、少し反省する点としては、類似する既存事業をせっかくグループ分けいたしましたので、類似する既存事業や新規事業の運営に活かせるような事業推進の方法とか課題がないかということで見ようとしたのですが、これについては経験の連続性をぜひこちらからもご提言できるようにしたいと思ったのですが、なかなかそこは難しかったかなというふうに思っております。

また、制度は違っても他部局で進めているような類似事業はないか。これも異業種そのもので連携して事業をすることで合理化が図れないかなと思ったんですが、これは若干そういうものも見受けられたんですけれども、特に制度というものを超えるということの困難さもあって、十分に提言できたかどうかという、これも評価員としては反省すべき点かと思っております。とは言いながら、ヒアリングも今度させていただきますし、それから提出された書類、いろんなシートを見せていただいた段階で、ぜひ、職員の皆さまには、前も申し上げましたが、全員行革の担当になったときに、どういうふうに考えていくのかというようなことと、それから、もうひとつは、ちょっと先取りして、未来の子どもたちへの宿題をどう片付けるかということの二点の気持ちを持って、いろいろ対応していただけたらなというふうには思っております。

やはり、資料からだけ見る難しさというのが、随分感じられました。

まだ、抽象的で雑駁な意見ではございますが、また、先生方のご感想を伺って、いろいろなことを思い出すかもしれませんが、先生方はいかがでしょうか。

評価員： 本日、こちらの、先生方と独任制でチェックしたのですが、今回は結構ばらけたなというのが印象でございます。それは、それぞれの評価員の専門もございまして、評価の視点というものを3人それぞれが持ちましたところの結果でございますので、あと、どのように二次評価を決めていくかということになります。今、座長から言っていた

きましたことは、本当に同感でございます。ですので、重複するところはより強調したいという部分と、あと私自身の個人的な意見、感想をのべさせていただきたいと思いません。

まず、やはり評価という部分で、我々に与えられているのは資料のみなんです。

座長もおっしゃいましたが、資料からみる難しさというのがございまして、われわれは資料だけを一生懸命、端から端まで見るんですが、前回のときも、かなりコメントでも要望させていただいたんですが、特にシートの具体性がやはりちょっとかけるというのがひとつです。

それからもうひとつが、今後の方向性という箇所があるんですが、現状のまま継続というものに関しましては、特にチェックをいれる必要があるなと思って見ている部分と、あと、改善というのはより改善されているのかなと思うんですが、意外と現状のまま継続と改善というのは、所管部署の価値観が入りますので、改善したと思っている部署のものをしてみるとあまり改善がみられていなかったり、謙虚な所管課ですと、現状のまま継続と書いていますが、意外と見ると中身は変わっていったるので、これだったら改善と書いてもいいんじゃないかと。その辺ばらつきがかなりあるなということで、本当は非常にこの今後の方向性というのは大事なんですが、これからちょっと考えなきゃいけない書きぶりといいますか、ちょっと難しいなというのを思いました。

それから、次に3点目ですが、評価するにあたって、それぞれ所管課さんが目標の指標をおいてらっしゃるんですね。その指標の置き方なんですけど、たびたび申しておりますけれど、いろんな事業におきまして、開催数ですね。なんかイベントだとか、いろんな市民講座でありますとか、その開催数とか講座数とか、参加人数というものを、評価の指標に見ていらっしゃる所管課さんが多いんです。これは行政として、今後考えていただきたいところで、そういうのを数字で提示しますと、そこに達したら実績と達成度は100%なんです。ですけれども、それよりも中身がむしろ事業というのは問われてきますので、それで「達成した。」「これはよかったんだ。」というのでは事業がよくなっていくとはちょっと思えない。

参加人数は少なくても、そこでの満足度が高かったり、講座の内容が充実していて、今はネットの時代ですから、一人の人がつぶやけば、どんどん世に広がるとかですね。参加が定員以上になっても中身が伴っていなければ、非常にそれはまた問題だということで、所管課さんにもうちょっと目標の設定の項目の見直しと言いますか、数とかにとらわれすぎず、中身で勝負をしていただきたいなというふうに思いまして、今回、達成度として100%とかそれ以上というのを見ますと、すべて開催数とかでカウントしているものが多々見受けられました。これをわれわれとしては評価の仕様がなっていないと思いませんか、その辺を今後ぜひ、シートとして改善を要望というところで思った次第でございます。

最後ですが、ここも座長と少し重なるんですが、この事業評価というのは一体誰にとっての事業評価なのかということで、やはり市民というのが念頭にございます。そういう意味で、市民の方へといいながらやはり所管課さんの背景なり、いろんな関連団体の方への配慮というものをやっぱり、所管課さんも板ばさみはあるかと思いますが、ズバツ

といかなければいけないいろんな事業というのが、見え隠れしているというのが見受けられました。やはり市民ということをブレずに職員の方が気持ちをひとつにすれば、動いていく事業というのが多々あるかと思います。

そういう意味で、座長がおっしゃった、まさに社会情勢の変化ということで、枚方市がこういう取り組みをされているということが、他の自治体よりも非常に厳しく、私も今日はちょっと厳しめのことを申しておりますが、これは期待できる枚方市へ向けての要望、メッセージということで、まさに先取りをしていただける会議であり、それを実践していただける事務局の方々がいらっしゃるかと思いますので、やはりこのまた10年、オリンピックまでに、日本の世の中、経済的にも社会情勢的にも本当に劇的に変わると思います。その上において、先取りというのが大きなキーワードになるかと思います。以上でございます。

座長：ありがとうございます。先生はいかがでしょう。

評価員：これまで行ってきた評価に対して、新しく今年度からのやり方の違いというのはグループでやるということがあったわけですが、それが私は反省にもなりますが、評価として、グループでやることの意味合いが出しにくかったかなということがあって、そこが、せつかなので、もうちょっと強調できたらと思うんですけども、一定事前に説明を資料以上に伺ったことに関しては、グループで取り組むというようなお答えをいただいたこともありまして、一定の成果、効果はあったと思うんですが、それが全面的にもっと何か提示できるようなことができればもっといいのかなという感想は持ちました。

あとは、先生方の繰り返しになりますけれども、事業の目的に対してどれだけ達成できているのかということが、もうちょっと、各現場で捉えなければいけないんじゃないかというですね。

目標の設定と評価のあり方が難しいことはもちろんわかるんですけど、そこがもうちょっと踏み込めないと、これからどうしていくのかということに対して、考えることを放棄しているんじゃないですけど、そういうことに繋がってしまうのではないかと思いますので、数値としての目標の設定とそれに対する評価というようなことが、実際の事業において、必要であろうかと思います。

あと一点、昨年まで取り上げてきたものを評価する際にどうするのかということでちょっと悩んだんですけども、やはり、しつこいかもしれないですけども、もう一回取り上げざるをえないなというようなことを考えまして、同じ事業をということになってしまう面はちょっと残念なところではありますけれども、もう一回チェックせざるをえないということもございました。ひとつは、なぜ、税金で負担してその事業をしなければならないのかということ、今一度見直してもらわなければいけないことはいっぱいあるのではないかと、そういう点が気になった次第です。

ですから、二次に何を取り上げるかは非常に悩んだんですが、評価に先立った問い合わせに対して、お答えいただいたことで、納得してチェックしなかったもの、本当はあえてすればよかったのかもしれないんですが、しなかったものもごさいますし、今まで取り

上げたものでもう一回チェックしたのもございますし、最後までこの中から何を選ぶかというのは悩ましかったところです。

座長：私のほうも、今までいろいろ申し上げた部局で、少し改善をやって、改善となっている事業をどうするかというところもあったんですけども、少しだけ改善したら、もうこれで終わったという雰囲気では困るので、常に改善するというを思っていてほしいと思って、そこら辺は、その方向がまったく見えないところとどっちが○だろうというのは悩んだところではあるんですけど。結局最後まで、事業としてどうか、人が見てどうかというのを、ほとんどどうなりながら、◎と○をつけたので、その間の差が見た目ほどにあったかという、ないかもわからないですね。

その他、評価員の皆さまからは、よろしいでしょうか。

<異議の声なし>

結構3人ともきつめの意見で事務局も耳が痛いかわかりませんが、決して事業仕分けみたいなことをやっているのではなくて、もっと頑張れといった事業も多かったと思いますので、ぜひそこら辺のことは、口は悪いですけども、決して仕分けでつぶしてしまえということではなく、事業内容をもっと上手にしてくださいねということと、効果的にやってくださいねというようなことを含めてのお話なので、どうか事務局のほうもよろしくをお願いします。

座長：続きまして、それぞれ評価員が独任制で評価しました結果をもとに、二次点検・評価対象事業の選定を行っていきたいと思います。

まず、二次点検・評価対象事業ですが、資料①一次評価結果集計表（検討資料）で、評価員3名がチェックをした事業というのは、対象としてよろしいですか。

<異議の声なし>

◎が3名のものと、◎と○がそれぞれありますけれども、とりあえず3名がチェックした事業というのは、3名ともが問題というか課題として考えているということで、6事業ありますけれども、これは二次点検・評価対象事業としていきます。

それからだいたい、10事業ぐらいということではよろしいですか。

事務局：そうですね、10事業ぐらいを想定しております。

座長：それでは、次に評価員2名がチェックした事業として、◎として2名がチェックした事業というのが、(削除)4事業あります。

その次をいれると11事業とちょっと多いですので、評価員3名がチェックしたものと評価員2名が◎したものを二次点検・評価対象事業とするということで、合計10事業ということではよろしいでしょうか。事業名までチェックできていないですけど。

<異議の声なし>

あと、◎が1名と○が1名というものをどうするかというのものもあるんですが、数がちょっと急激に多くなるということもありますので、この辺で切らせていただきたくということにしたいと思います。

結論といたしましては、評価員3名がチェックをした事業の6事業と評価員2名が◎をした事業の4事業の合計10事業を二次点検・評価対象事業といたします。

それでは、二次点検・評価対象事業とする事業は今申し上げたんですが、中身の確認のために、事務局のほうから事業の読み上げをお願いできますでしょうか。

事務局：それでは、事業の読み上げをいたしますので、**資料②**二次点検・評価対象事業選定シートのほうをご覧くださいませようをお願いいたします。

まず、1ページの上から4番目の地域振興部、地域振興総務課の6. 負担金交付グループの「文化観光協会負担金交付事業」、こちらは○をチェックされた評価員が3名の事業でございます。続きまして、下から9番目になりますけれども、地域振興部、地域振興総務課の8. イベント関係グループ、「枚方市魅力発信事業」、こちらは◎をチェックされた評価員が2名の事業でございます。1ページの一番下でございますが、社会教育部、スポーツ振興課の8. イベント関係グループ、「各種スポーツ大会等開催事業」こちらは3名ともに◎をつけていただいた事業でございます。

続きまして、2ページに進んでいただきまして、上から2番目でございます、政策企画部、広報課の11. 情報発信事業の「ケーブルテレビ放送活用事業」、こちらは2名の評価員が◎をつけていただいた事業でございます。

次に、下から8番目でございますが、福祉部、高齢社会室、16. 保健・医療グループの「高齢者鍼灸マッサージ事業」、こちらが◎を2名の評価員、○を1名の評価員で3名ともにチェックをつけていただいた事業でございます。その下の福祉部、高齢社会室、16. 保健・医療グループの「生きがいと健康づくり推進事業」、こちらは◎を1名、○を2名で3名ともにチェックをつけていただいた事業でございます。

続きまして、3ページの上から10番目でございます、子ども青少年部、子育て支援室、23. その他サービス事業グループの「地域子育て支援拠点事業」、こちらは◎を2名、○を1名で、3名ともにチェックをつけていただいた事業でございます。

次に、4ページでございます。下から9番目の土木部、交通対策課、所管課選定分で4. 施設等運営事業の「駐車場案内システム維持管理業務」、こちらは2名の評価員が◎をつけていただいた事業でございます。

次に、5ページの上から3番目、地域振興部、産業振興課、7. 補助金事業グループの「中小企業エコアクション21認証取得促進事業」、こちらは◎を2名の評価員がつけていただいた事業でございます。

最後にその下の、地域振興部、産業振興課、7. 補助金事業グループの「伝統産業育成事業」こちらは、2名の評価員が◎、1名の評価員が○の3名ともに選んでいただいた事業となっております。以上が先ほど選定いただきました3名がチェックしていただいた6事業と2名が◎をチェックしていただいた4事業の10事業となります。

座長：ありがとうございました。

それでは、二次点検・評価対象事業については、10事業で今読み上げていただいたとおりでございます。

案件（２）二次点検・評価の実施について

座長：それでは、案件（２）二次点検・評価の実施についてを議題としたいと思います。事務局より説明をお願いいたします。

事務局：それでは、二次点検・評価の実施について、ご説明いたします。

資料③今後のスケジュールをご覧ください。

本日選定いただきました二次点検・評価対象事業につきましては、本市におきまして、10月上旬頃までに、一次評価結果を踏まえまして、二次点検を実施する予定でございます。その上で、10月上旬から下旬までに、評価員会議の場におきまして、二次評価といたしまして、直接担当課とのヒアリングを実施していただき、それぞれの事業について、今後の方向性などの評価を行っていただく予定としております。

また、評価結果に係る対応案の作成につきましては、ヒアリング実施以降に一次・二次評価の対応案の作成を各所管課に依頼します。

その後、市議会へは、11月下旬に、各所管部署より各委員協議会におきまして報告を行い、ホームページ等に点検・評価結果及び対応案を公表し、市民の意見を伺って参りたいと考えております。以上でございます。

座長：ありがとうございました。

ただいま、事務局から、二次点検・評価の実施についてということで説明がございましたけれども、みなさまで、今のご説明の中で確認したい事項等がございましたら、ご質問いただければと思います。いかがでございますか。かなりまたスケジュールがいつもどおりタイトで、日程調整がまた大変のようですけども。

座長：公開ヒアリングが10月上旬から下旬とありますけれども、こちらの時間については、これまでの2年間と同じようなかんじでしょうか。

事務局：そうですね。同じように考えております。

座長：先ほどご意見でございましたけれども、ヒアリングを開催するまでに、確認をしていただきたいんですけれども、改善というのは、事業を拡大したり大きくしたりすることが改善ではないので、ぜひ、参加者数でも一人の方が何回も来ているのか、延べ人数とかがここで必要なのかは、事業によっていろんな発想があると思うんですけれども、延べ人数が事業の成果を一番現している場合もあるし、そうじゃなくて、一人ずつの個々の人数の方がいい場合もあるし、逆に言えば、人数は減っても、むしろいろんな意味で事業目的が改善されているから参加者が減ったという場合もあるし、そこら辺を増やすばかりではなく、事業目的のほうで考えていただければと思います。

案件（３）その他

座長：それでは、次の案件（３）その他について、事務局から何か連絡事項などはございますでしょうか。

事務局：次回の会議は、二次評価といたしまして、**資料③**今後のスケジュールにもございませ
とおり、10月上旬～下旬に担当課との公開ヒアリングという形で開催させていただき
たいと考えております。

日程につきましては、事務局で評価員のみなさまと調整させていただきまして、決まり
次第、ご連絡させていただきたいと考えておりますので、よろしく願いいたしま
す。以上でございます。

閉 会

座 長：それでは、ご協力を得まして、以上をもちまして第3回評価員会議を終了したいと思
います。どうもありがとうございました。